

第 4 回 館山市議会定例会会議録

(第 2 号)

1 平成6年12月14日（水曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 22名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	11 番 山崎 雅己
12 番 岩村 勝弘	13 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫	15 番 山中金治郎
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稲 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 4名

10 番 庄司二三男	16 番 鈴木 勝美
23 番 石井 昌治	26 番 辻田 実

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総 務 部 長 神子 純一	民生部長 渡辺 富雄
経 済 部 長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水 道 課 長 谷貝 実	教 育 委 員 会 長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 鈴木 哲
書 記 四ノ宮 朗	書 記 安田 仁一
書 記 小山 真	書 記 松浮 郁夏

1 議事日程（第2号）

平成6年12月14日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時03分

◎副議長（小宮利夫君） 本日の出席議員数22名、これより第4回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎副議長（小宮利夫君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の12月9日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

15番議員山中金治郎さん。御登壇願います。

（15番議員山中金治郎君登壇）

◎15番（山中金治郎君） 発言のお許しをいただきましたので、質問に入らせていただきますが、まずその前に、庄司市長さん、本当に再選おめでとうございました。

では質問に入りますが、まず、通告をいたしてございます積極的な市政の展開を望むということ、大きな2点として工事の請負について、3番目として、いじめ問題に関連し、市内の実情について、以上3点について御質問を申し上げます。市長さんは2期目を迎え、いよいよ御活躍のときと存じますので、率直な御意見を賜りたいと存じます。

さて、市長さんは、これは関係が違いますが、余り電車は利用されないと思いますから関心がないと存じますが、去る12月の3日にJRのダイヤ改正が行われまして、今回の改正でも千倉発着の上下12本の電車が記載されております。これは十二、三年前でございましたが、以前はたしか上下4本と記憶をいたしております。これは運行上のいろいろな点があろうかと存じますが、単純に考えますと、千倉から、また千倉への乗客が増加している。ひいては、館山の乗客の減少を意味していることになると考えられます。言い方を変えれば、館山の衰微を象徴しているということになります。このようなデータというか、情報は余り市政執行には使用されないかと存じますが、実際に乗客を扱っておりますJR側の予測した運行計画として厳然と存在をしておりますから、これはいかに繕っても否定できない事実と存じます。

これは、私も観光協会の役員をやっております、責任があろうかとも思いますけれども、さらにこれは――私が何回も質問で資料として用いております経済の情報誌が毎年11月末に全国の都市の成長力やその他のランキングを発表しておりますが、本年も全国664市の各ランキングを掲載しております。そのうち、最も基本である成長力におきましては、当館山市は全国664市の中でDランクで557番目、市場力では439番目ということでございます。県南の各市を見ますと、鴨川市が成長力で404、市場力で458、勝浦市が430と490番目、富津市が106と466番目、君津市が179と295番目ということになっております。また、年間の所得額――これは納税義務者1人当たりの課税対象の所得額ですが、館山市は343万3,000円で、県下30市の中で24番目ということになっております。

さらに、別の統計から申し上げますが、市町村の決算状況によって、平成5年度分で一覧表をつくって調査してみました。以下申し上げる数字は、各市町村の平成2年の国勢調査の人口で割り、円未満の端数は切り捨てた数値でございますが、まず歳入決算額で住民1人当たりの額を算出してみますと、安房郡内の町村では、最高が三芳村で1人当たり64万9,481円、次が富山町で64万2,072円で、最低が千倉町の39万9,527円、この8町村を単純に計算して平均を出してみますと、1人当たりが51万9,456円の収入を得て、また

同額の費目で支出することができるようになっております。各市の分は、茂原市の人口は8万 3,400人ですが、これを上限として、近隣の類似市に当市を入れて、7市を調査対象といたしました。最高は袖ヶ浦の44万 5,890円、鴨川市は41万 1,519円、勝浦市が最も低く、36万 1,104円であります。当館山市はなぜかけた外れに小さく、1人当たり29万 9,804円で、三芳村の約46%にしかありません。8町村と7市の中で歳入1人当たりの額が30万以下というところは館山市を除いてほかにはございません。

さらにこれを財源的に区別して、税収と地方交付税の合計額で調べてみますと — この2項目は税収がふえれば交付税が減るという相関関係にありますから、この合計額によったわけでございます。これまた当館山市は15市町村の中で最も低く、住民1人当たりの額が16万 667円。最高は三芳村の33万 1,936円、次が丸山町の32万 4,213円で、10万台の町村はございません。7市では、最高が袖ヶ浦市の31万 4,188円、鴨川市の21万 2,360円で、低い市では茂原市が16万 7,863円でございます。これでも当館山市よりは 7,200円ほど上回っております。7,200円といいますと、人口を掛けますと3億 9,000万余円館山よりは上回っているということになります。その他、国、県の補助金から見ても低い水準で、どうしてか、市債だけは1人当たりの額が5万 893円と、7市の中でも鴨川市の7万 6,535円に次いで第2位ということになっております。歳入面から概略言えることは、当市の担税力は低いのではないかと考えざるを得ません。

若干歳出に触れさせていただきますと、担税力培養に必要な産業3款の合計額を同じ住民1人当たり額で調べてみますと、安房郡内では三芳村が最高で、1人当たり19万 2,460円、最低が天津小湊で3万 7,506円、このうち商工費だけ見ますと、最高が白浜町で5万 7,550円、最低が三芳村で1,827円。三芳村、これは経済状況が違いますから比較対象にならないでしょうが、概して町の方が商工費の割合が高いようです。これに対して当館山市は、産業3款の合計が1人当たり1万 6,914円です。商工費におきましては4,658円あります。類似8市では、最高は鴨川市が産業3款で5万 4,273円、勝浦市が4万 4,076円、以下富津、茂原と続きますが、当市を除いては、産業3

款で1万円台というのはございません。そのうち、商工費分を見ますと、館山市は1人当たり4,658円に対し、最高は茂原市の1万1,676円、鴨川市が1万1,487円、勝浦市が5,222円と続いております。最低は袖ヶ浦市の3,269円ということになっております。

細かい数字を並べましたが、この財政数値からも、当館山市はこのまま推移をいたしますと、どうにもならなくなってしまうのではないかと思います。を得ません。

以上、3つの情報を申し上げましたが、もっと強い危機意識を持って、積極的な振興事業を可及的速やかに実施していかなければならないと考えます。このような観点から、私は次の3点を要望いたしますが、市長さんの御所見を承りたいと存じます。

まず第1点として、積極的な市政の展開を望む。小さな1点として、不況下の産業対策についてということでございますが、まずその中で商業対策につきましては、今や各商店街は、大型店の進出に加え、円高や貿易の自由化により、価格破壊という予想だにできなかった重圧が加わり、閉店を余儀なくされた商店がふえてきましたが、この現状を見て、どのような対策を考えているか、お伺いをいたします。

次に、工業対策ですが、円高により、経営の合理化のために大手企業が海外に工場進出を決め、今までに下請企業が大きな痛手をこうむっていると思いますが、それらの対策についてお伺いをいたします。

次に、宿泊関係の対策ですが、円高による価格破壊が起こりまして、業界もこれが対応に東奔西走の努力をしているようです。早急に対策を講ずる必要があると思いますが、その実態を市はどのように把握しておるのか、またその対策についてお伺いをいたします。

次に、第2点として、ビーチ利用の推進につきましてお伺いをいたします。市の地勢環境等から、観光立市以外は余り望めない当市といたしまして、既に県において調査をいたしておりますビーチ利用計画に対して、受け身の体制ではなく、積極的に県に働きかけて、一日も早く事業が着手できるよう万全の措置をとられたいと思いますが、この点についてお伺いをいたします。

次に、第3点、集客力のある観光施設の造成についてでございますが、今は全国どこへ行っても観光地であります。むらおこし、まちおこしといっても、大部分が観光絡みであります。先日、「ザ・21」という経済誌で全国2,576町村で成功しているものを195町村紹介してありました。千葉県からは3町村、安房郡の丸山町、天津小湊町と香取郡の小見川町が掲載されておりましたが、形態はいずれも住民対象だけではございません。多くのよそから的人が入ってきて経済行為があり、それが地域内に波及効果をもたらし、振興していくというものと思います。まず人が集まってくるような施設——幸い、館山は海があります。それを利用するような、大噴水のようなものを、またそれと関連する土産物とか、いろいろな人たちが関係できるような施設の造成を考えてもらいたいと思います。私はこれは噴水がすべてということではございませんが、館山市は海岸線が31.5キロと非常に長いものですから、この海を利用するのが一番早いと考えましてこれを提案したものでございます。このように観光客が増加していけば、館山駅の駅舎のビル化、東京方面から、また伊豆方面からの定期航路の開設、関連企業の進出が予測されまして、その波及効果は幾何学的に拡大して、ひいては足腰の強い担税力の培養になるものと考えます。このような施策を積極的に行ってもらいたと思いますが、この点についてのお考えを承りたいと存じます。

次に、大きな第2点、工事の請負について。先ほども申し上げましたが、経済不況がなかなか回復してまいりませんし、市内の各企業主は厳しい企業運営を余儀なくされております。幸い、建設関係は道路を主に発注が多くなっているようでございますが、大手の企業が請けても、大部分が地縁関係の地元業者が下請または再下請で施工するような状況ですが、できるだけ地元企業に直接発注できるよう、大型工事であれば、工事を小さく区分して発注するような方法がとれないのか。また、入札方法についても、多くの企業体に機会均等の場を与えるような方法で実施されたいと思いますが、いかがお考えか、お伺いをいたします。

最後の3点目でございますが、いじめ問題について。これは今毎日、新聞やテレビで問題になっておりますが、当市内の中学校等にいじめの問題がな

いかどうか、この点についてでございます。最近、愛知県下のある中学生がいじめを苦にして大切な人生を自ら絶ったということが報じられております。学校側はよくわからなかったというようなことを言っているようですが、こういう悲しい事実があらわれてからではもう遅いし、先生の前ではそういうことをしないでしょから、登下校や休み時間まで含めて、先生方の目の届かない時間帯はいっぱいございます。そういう時間帯にこそ気を使っていたく必要があるかと思います。かつて当市でも若干問題があって、私も質問いたしたことがあります、現在の当市内の各中学校等の実情についてお伺いをいたしたいと存じます。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問させていただきます。御清聴ありがとうございました。

◎副議長（小宮利夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの山中議員の御質問にお答えいたします。

最初に、御激励ありがとうございました。

御質問の大きな第1、積極的な市政の展開についての御質問でございます。その第1点目、不況下の産業対策についての御質問でございますが、御案内のとおり、経済社会における環境の変化はまことに著しいものがございます。21世紀に向けまして大きな構造的な変化が生じておりまして、ガット・ウルグアイ・ラウンドなど、国際情勢を踏まえました新しい環境の中で、大きな流れが産業界全体を取り巻きまして、過去にない厳しい局面を迎えていることは国全体の問題であると認識しております。館山市の商業を見ましても、大店法の規制緩和や都市間の競争、さらには最近では流通問題など、また工業にいたしましても、企業の生産拠点が海外へ移り、海外からの輸入が増大するいわゆる産業の空洞化による関係業者へのしわ寄せなどが見られるところでございます。観光産業につきましても、観光客のニーズの多様化、円高によります国外旅行への傾向など、新たな対応を迫られております。館山市といたしましては、経営環境の変化に対応するため、積極的に千葉県と協調しながら、南房総館山の地域の特性を生かしました施設整備の近代化や融資

制度の活用などを積極的に推進し、関係団体の方々とともに対応してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、ビーチ利用計画の推進についての御質問でございますが、この計画は千葉県が事業主体でございますが、館山市といたしましても、海に生きる人たちの協力をいただきながら、早期に着工できるよう、これも積極的に対応しているところでございます。

次に、小さな第3点目、集客力の高い観光施設の造成についての御質問でございますが、現在集客力が期待されるものと考えまして進められておりますビーチ利用促進モデル事業計画あるいはウエルネスリゾートパーク計画の中で、それらの施設の具体的な内容を国、県及び関係団体等と協議しながら、これも積極的に進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の工事の請負についての御質問でございますが、入札の実施に当たりましては、お考えのとおり、事業の種類、規模、内容等を踏まえまして、地元業者の育成を十分考慮しつつ行っているところでございます。

大きな第3のいじめ問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

次に、大きな第3、いじめの問題に関連し、市内の実情はどうかとの御質問でございますが、市内中学校では平成5年度に5件のいじめが報告されております。いずれも深刻な状況に至らず、本人の努力及び家庭と学校の連携により解決されております。館山市教育委員会といたしましては、あらゆる機会をとらえ、家庭教育の重要性について啓発し、引き続き生徒指導、特に生徒理解及び教育相談活動の充実を学校教育の重点施策として取り上げ、関係各機関と連携を図りながら、いじめのない社会及び学校づくりを目指し、努力してまいりたいと思います。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番(山中金治郎君) 再質問いたします。

まず最初の商業対策でございますが、会議所の資料によりますと、63年から平成3年にかけて商店が29店舗減少しているということ。それと、各界のリーダーアンケートによりますと、商店街の整備について何らかの不満のある人というのが93.7%ある。そして、買い物施設としての商店街に対しては不満が89.1%。ほとんどの人から今のこの商店街ではだめなんだ、何とかしてくれという声が出ているわけですので、これは補助金だとか利子補給ぐらいのことではとても私は追いつかないんじゃないかと思うんですが、そこで1つ御質問いたしますが、もう何十年も前から、本間市長のときから、駅の東口の再開発ということで、あの六軒町、三軒町の商店街をきちっとしよう、本当に買い物をしやすい商店街にしようということの計画があったようでございますけれども、その計画は今生きておるんですか、お伺いいたしたい。

◎副議長(小宮利夫君) 三平建設部長。

◎建設部長(三平孝司君) 東口の開発の関係でございますが、53年当時から整備手法で、市街地再開発事業あるいは沿道区画整理事業、そういうことで地元権利者との調整を図ってまいってきておるんですが、現在に至っても合意に達してございません。また、現在は銀座商店街の中で街路事業を取り入れたもので整備ということで、まちづくり委員会という中で検討をなされておるということで、再開発の関係につきましても、地元の合意形成についてお願いしているところでございます。

以上でございます。

◎副議長(小宮利夫君) 山中金治郎さん。

◎15番(山中金治郎君) 街路事業という言葉が出ましたのでお伺いいたしますけれども、今市道の八幡線ですか、あれがかなり道幅が広がっている。それと今度、都市計画道路の青柳から真倉に行く大賀線もまた広がって、18メートルということなんです、今の六軒町通りの道幅は何メートルで、それを今後やるとすれば恐らく18メートルということになると思うんですが、そういうことが可能かどうかお伺いをしたい。

◎副議長(小宮利夫君) 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 現在街路の決定をされておりますのは幅員が12メートルでございます。地元の要請が現在ございまして、幅員を16メートルということで地元調整がなされているところでございます。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） 地元調整が16メートルということですが、16メートルでも、18メートルにしなくてもこれはいいわけですね。16メートルでいいわけですね。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） これから16メートルということで地元調整がなされた場合には、当然これは知事決定でございますので、県あるいは建設省と協議をしていかなくちゃいけないというところでございます。ただ、交差点等が接近してございますので、16メートルで基本計画をいたしましても、18メートルになる区間がかなりの部分あるんじゃないかなろうかという予測はしてございますが、実際の実施計画等がなされておられませんので、既定の幅員は16メートルということで調整をしているところです。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） しつこいようですが、16メートルに幅員を広げるということで、それで地元の了解が得られているわけですね。できるわけですね、これは。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 現在都市計画決定が12メートルでなされております。これを変更する場合は、事業ありきの話でございますので、当然地元住民の同意といいますか、そういうものが100%にほど近いものをお願いしているところでございます。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） ですから、これは同意が100%得られなければだめかと思えますけれども、それが同意が得られる見通しがありますか。なければこれは不可能ということになるけれども、どうですか。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） まちづくり委員会での同意のお願いをやってございますが、地元の役員さんあるいは全体会議の中ではどうしても全員同意をもらって進めていくということでございます。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） 今までよく――前の再開発のときもそうでした。再開発の委員会が中心で進めて、市の方が後からついていったというふうなことがあって、結局あれも何かつぶれちゃったようでございますけれども、やっぱりこういうような計画というのは、どっちかという、まちづくり委員会のもっと先頭に市が立って積極的に入っていないと、これは恐らくできなくなっちゃうと思いますので、そうやって市が直接中へ介入をして、逆にそのまちづくり委員会を引っ張っていくような形で取り組んでいただきたいということでお願いをいたします。

それと、近代化の利子補給をして進めるということでございますので、これは近代化するについてもかなりの額の金が必要になってくるわけでございますので、やっぱりその辺を考えてひとつお願いをしたい。これはまたこの後に出てきますので、そこで申し上げます。

次に、工業問題でございますけれども、これも会議所の機械工業部会というのがあります。そこで何か11名が集まってその会議をされたというのがちょっと出ておりますが、そうしますと、その中で出てきたのが、営業時間を十分にとって営業に出かけた、いわゆる外交に出たけれども、仕事量のアップにつながらなかった、売り上げが30%ダウンしたという人がおりますし、また極端なのは、売り上げが60%ダウンして、長年こつこつとためた資金が、一気にそれが全部持ち出しになっちゃったというような、本当にこういうふうな切実な問題が出されております。こういう工業者の現状についてそのお考え、その対策等についてお考えがあればお伺いをいたします。

◎副議長（小宮利夫君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 工業についての御質問でございますけれども、最近の経済情勢の中で、いわゆる円高、それから企業の海外進出によります空洞化、そういうようなことで、非常に市内の工業者については厳しい環境

にあるわけですが、実は11月に工業部会の役員の方とお会いしてお話ししたわけですが、やはり全国的な傾向でございます。下請というような形になりますと、受注量も減ってきている。したがって、受注金額につきましても非常に厳しい引き下げを求められている。そういうような中で、ある企業の方は、ある程度海外進出もしているし、まあまあの経営をしているという方もおいでになりましたし、親企業が海外に出るけれども、自分としてはもう海外に出るだけの力はない、体力はないという方もおいでになります。そういう方につきましては、ただ単に下請的に製品をつくるのではなくて、自社製品をこれからはつくっていかなきゃならないのではないか、そういう努力をする必要があるというふうな御意見もございました。そういうふうなことで、市長答弁にございましたように、工業部会で種々そういうおのおの違う立場の方たちが議論されているわけですが、その推移の中で、行政としてどのような支援ができるか、その辺を見きわめながら対応してまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） ぜひ積極的にお願いいたしたいと思います。

そこで、もう一つ伺いますが、工場の経営者が今別問題で非常に困っていることがあります。それは、最初ほとんどうちのないところへ工場をつくって始めた。そうしますと、だんだん周りにうちができてきた。そして住宅区域の指定になって、そうすると周りの人からうるさいから、うるさいからと苦情が随分出てくる。それで、うちの家族も非常に嫌がらせを受けて困るんで、しょうがないんで、またお金を何とか算段して、ほかへ出て行って工場をつくるというようなことが随分ございます。中には三芳へ行っちゃったのもありますけれども、そういうことで、今度工業団地を九重につくるという計画が進んでおるようでございますけれども、その工業団地の中へそういった地元の工場を入れてもらえないかどうか、こういうふうな声が随分強くなってきておりますが、その辺について、その対策をお伺いしたい。

◎副議長（小宮利夫君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 工業団地でございますが、これはいわゆる地域外から企業を誘致して、産業の活性化とあわせまして、新しい雇用の創出ということでこの事業がスタートしたわけでございます。今議員さんからお話ございましたように、地域の事業者のそういう団地というようなことでございますが、実はこれも工業部会の皆さん方のお話の中に出たわけでございますが、ある業者の方については、既に出られて経営環境を改善されているという方もおいでになります。中には将来的に考えたいというような方もおいでになるわけでございます。そういうことございまして、今計画しておりますその工業団地の中にそういういわゆる地域の事業者を取り込むというようなことは現時点では考えておらないわけでございますが、そういう必要性があれば、また別な考え方の中で検討してまいりたい、このように考えております。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） 今おっしゃったように、別の方法ですか。工業団地は県のあれですから、これはもちろんよそからの工場の誘致ということが基本かと思えますけれども、ですから別の方法ということで、やっぱり市が単独でそのぐらいのことを考えてやって、工業団地を買うときに一緒に土地を売ってもらって、そこへ地元業者を取り込むというような形でぜひともお願いをいたしたいと思いますが――これはお願いをします。

それでは、次に移りますが、ビーチ利用の問題ですが、これは県が大分調査を進めているということでございますけれども、その後何か関係者、特に漁業会へ行って説明会を持つというふうな話を聞いておりましたけれども、そういった漁業会やほかの団体に対する説明会がもう終わった段階ですか。

◎副議長（小宮利夫君） 永野市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） このビーチ利用の促進モデル事業につきましては、今も御指摘のように、やはり住民のコンセンサスというのが一番大切でございます。特に、海で生活している漁業者、長期的な視点に立ってこれが成り立っていくようなということでもって、きょう――御承知のように事業主体は県でございますので、館山土木事務所と、それと私どもの方で現在

行っているはずでございます。そのように、県事業とはいいいながら、館山市としても最大限の努力をして、コンセンサスに努めてこの事業を成功させたい、このように考えております。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） きょう行っているということですから、これは御期待申し上げますが、それと、答弁の中で積極的にこれに対応していくというようなことですが、この積極的に対応するというのは具体的に言うてどういうふうなことをやっていらっしゃるんですか。

◎副議長（小宮利夫君） 永野市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） ただいまも言いましたように、事業主体が県であるわけでございます。同時に、いわゆる養浜事業であるとか、あるいは駐車場の問題であるとか、そういう施設については県がやるわけですが、それに付随して、やはり海岸の道路環境をよくするとか、そういういろいろな市としても対応しなければいけない問題があるわけでございまして、現時点におきましては、それらを踏まえて基本計画を——いわゆる海岸整備事業につきましては基本計画を策定したところでございます。引き続き港湾等につきましてもできれば来年度県の方も考えているようでございますので、とりあえずはその基本計画に全力を尽くす、こういうことでございます。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） せっかくああいう国の指定を受けた事業でございますので、これは今お聞きしますと、市でもかなり積極的に動いているようでございますが、さらにこれは市の単独事業ぐらいの気分になって、それで県や国におぶさっているんじゃないくて、これは積極的に、早急にこの工事に入っていただけるように御努力をお願いいたしたいと思います。

次に移りますが、小さな3点目の集客力の高い観光施設の造成についてということで、私はさっき言いましたように、館山市は非常に海岸線が長い。いい湾を持っている。ですから、この湾を利用して、一つは海の浄化もありますし、また魚資源の確保ということもある。そしてまた、観光ということを考えて、大噴水を上げてということで私は出してございます。これは今全

国で何カ所か — もちろん海のことではございませんが、何カ所かこの噴水を始めたり、またこれからやろうというのが各県の計画で幾つかございますが、私はどうしてこういうことを言うかという、館山市は財政的にも非常に苦しい。あの噴水を上げると13億、そんなにかかるのですかと言うけれども、私は非常に安いと思う。それで、やる気になれば県や国から助成が出るし、恐らく地元負担が4億か5億でつくるものはできちゃうと思うんです。

この前市長さんが、金がないんで、金はどこからかということがあって、私はほかの企業に話したことがある。山中さん、幾らかかるんですか、13億だ、そんなものはうちの会社でつくってやりましょうか。ただ問題は — その先があるんです。企業がそうすると、やってやるかわりにこの辺をとということが出てくるわけです。それが大変なんです。できたら 200億から 300億ぐらいの観光施設をつくらせてくれということ。そうなってくると、リゾートが吹っ飛んじゃったように用地問題が出てきますので、これは大変なことになる。

ですから、わずか4億か5億ですから、これはやっぱり行政でもってやっていただきたい、そういうことで私はこの噴水問題を出したんです。そのほかのことでも構いませんが、とにかく問題はよそにないような、首都圏の人が館山を目標にするような、そういうものだということでこの問題、噴水を提起したわけでございます。そういうのがあれすれば、先ほど言いましたような再開発にしても — あの再開発が問題になったというのは、駅前の人たちが反対でだめになっちゃった。しかし、そういう人たちも、前に私がどうだあんた方、駅ビルの中へ入って商売できるよ、駅ビルの中へ入れてもらえればどきますよ、住まいはここじゃなくていいんだ、ただ商売をこの一等地でやりたいんだということなんです。ですから、そうしてあれば、そういうふうなので、もしその駅ビルのようなものができればああいう再開発ができちゃったんだ。

そうすると、その駅ビルのやつは、JRなんかに言わせると、それよりは — やっぱああいう企業は、電車の利用客が激増するようなことをまず市が考えてくれ、利用客がうんとふえるようなことをやればやりましょう、駅

ビルをということなんです。それでそのときに、山中さんがしょっちゅう言っているようなあの大噴水、ああいうものを上げてください、そうすれば10階建てぐらいやりましょう。もちろん道路がよくなってくるから、特急で2時間かかったんじゃないから、1時間半で来るような部分複線も考えなくちゃしょうがない。そして、踏切をなくした立体交差も、そういうことがどんどん、どんどん出てくるんです。

だから、こういうよそにない、館山が全国から注目されるようなものをまずやっていただきたいということで私はこれを提案しているわけなんです、こういうことをやっても、ここでもって御返事はいただけないと思いますけれども、せめて影響調査、そういうのをやって、どういうふうな影響があるのか、またいろんな海の中の問題、周りの問題、そういった影響調査ぐらいは私はしていただきたいと思う。これは県の方でも、市の方から正式に上がってくれば、私の方で協力しましょうということを書いてくれるんですから、問題は市の対応なんです。だから、市長さんの方がよし、そういうことをひとつまず調査してみよう。調査してみて、メリットとデメリットでデメリットの方が多いいいというなら、これはもうできないわけですから。一番基本的な問題ですから、やっぱりそういった影響調査をしてもらえるようなことはできないものかどうか、これは市長さんにお考えをお伺いしたい。

◎副議長（小宮利夫君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 海を活用するということ、それからほかになに何かをつくるというようなことについては、私どもも考え方としては同じでございます。ただ、先ほども公室長の方からビーチ利用の関係で答弁がございましたように、海をさわるといいますか、海を開発するということになりますと、そこに生きておられる方たちのやはりコンセンサスといいますか、それがまず基本的な部分で今必要な段階ではないのかというふうに考えておるわけでございます。さきの本会議でもお答えした経緯がございますけれども、そういう個別的な部分につきましては、そういう基本的なコンセンサスを得られた次の段階でいろいろどうだろうかというふうな対応をしていきたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） 海で生活している人のあれが出ましたから申し上げますけれども、これは5年前でしたか、あそこの会議室で、噴水のやつが新聞に出たら、150人ぐらい長靴で向こう鉢巻きの人たちが押し込んできて、私に丸太ん棒をしょわせるとか、私を殺しちゃうだとかと大騒ぎを20分ぐらいやった経緯がございます。しかし、その後私はほかの問題で漁業会へ行きまして、私もそういうことをやろうといって選挙をやった人間ですから、おどかさねちゃって下げるわけにいかない。それで、組合長と専務に、このことだけで私は近いうちにまたもう一回来るから、もうああいうふうに断らなくたっていいから、私も戦争に行ってさんざん殺し合いやってきているんだから、断らなくたっていいから、もしふざけるなと言ったならば、この事務所の下にも随分光った長いやつがある。黙って息の根をとめてくれればいい。そうすれば葬式だって省けるからと私言ったことがある。そうしたら、ちょっと待ってください、協力します。ただ、影響調査をしっかりとしてください。それで、その後で行ったときはこのビーチ利用のが出てきてからです。今ビーチ利用のやつがあれしているんで、この説明会を、たしか私行ったときは、10月の末とか11月に総会を開いてやってもらうので、その問題をクリアしたら、その次にそれを出してくださいと言った。そして、影響調査してもらえば、それを受けて、その結果を受けて会議を持ちますということなんです。

ですから、前と違って、前にこの市役所の中でひっくり返るような大騒ぎをやったときと違って、彼らとしても今のままでは困る、やはり観光漁業を考えなくちゃだめだということまでできているんですから、私はやっぱり市の方も積極的にその問題に対応していただきたいと思います。お願いします。

それでは、次に移りますが、工事の請負等につきまして、大分考え方があって、市内業者を優先してあれされたようでございますけれども、過去に市外の業者に落札させて市外の業者に依頼したその件数ですか、どのぐらいあるのか。それで、こういうふうに請負が問題になってきてから大分地元がふ

えてきたと思うんですが、過去と現在のその数字をちょっとお聞かせいただきたい。

◎副議長（小宮利夫君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 今手元にございます資料でちょっと御説明させていただきます。

主な工事でございます土木建築の工事の関係なんですけれども、市内業者への発注状況ですけれども、平成5年度の実績でございます。全体の発注件数が134件あったわけでございます。そのうちの市内業者への発注が125件、発注率で言いますと93％となっております。これを反対にしますと、市外の業者の発注につきましては134件から125を引きますと9件ですか、これは非常に特殊な——例えば漁港整備とか、市内の業者ではできないような、そういった特殊な工事についての発注が主なものでございます。そういうことで、今ちょっと手元にある資料が平成5年なものですから、そういうことで御理解をいただきたいと思います。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） 最後のいじめ問題に移らせていただきますが、何かいじめが5件平成5年度中に発生をしておったということですが、その内容を簡単にお伺いしたい。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） その5件でございますけれども、男性がかかわる問題が1件、女性——女の子ですけれども——の生徒にかかわるものが4件ございまして、現在の調査のところでは2年生を中心としているわけでございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 山中金治郎さん。

◎15番（山中金治郎君） これは非常に難しい問題だと思いますけれども、やはり常に暴力行為に気を配って、勇気を持って当たっていただきたいと思っています。

ここにいいのがちょっと出ていますので、これは経済新聞に出たのですが、

私はこれはすばらしいなと思って見ておりましたものですから、ちょっとこの肝心なところを読みます。これは高校の体育教師だったころのことだという——接骨院の先生がやったことらしいんですが、東京のある学校で、まるで無法地帯で、生徒間のひどい暴力行為が相次いだ。先輩の教師たちは荒れ果てた状態に心を痛めていたが、手を下せない状態だった。柔道家であるA氏は自分の力で抑えるしかないと考えて、A氏は暴力を振るった生徒や評判の悪い生徒を見つけ次第柔道場に連れてきて、そしてこれから私が君たちにやることは体育の指導なんだ、決して暴力ではないよと断った上で生徒を徹底的に投げたり締め上げた。そうしたら、校内の暴力行為はたちどころにして一掃された。これは確かに手荒過ぎる指導法で、賛成をしかねるが、教師としてはやむにやまれぬ行為だったんだらうということが1つ。

それから、愛知県の中学生、大河内君がいじめによって自殺したのは言いようのないつらい事件だ。金をせびられ、死ぬような目に遭わされ、ついに自殺に至った。こんなひどい状態を学校側が気がつかなかったのはおかしい。清輝君は保健室に相談に行っている。問題は、生徒の暴力行為やいじめが頻発する学校には事なかれ主義がはびこっているのだと思う。悪い生徒が卒業するのをひたすらに待つだけという教師の言葉を聞いたことがある。こういう学校では、えてして問題解決に当たろうとする教師が浮き上がった存在になり、情熱を失うケースがある、こういうふうなことが出されております。私はもっともだと思います。

ですから、学校の先生はもっと勇気を持ってその中に入って行ってそれを解決していくということと、私はPTAの父兄にも、家庭内のしつけといいますか、そういうことをやっぱり再教育していただきたいということで、これはお願いして、質問を終わります。

ありがとうございました。

◎副議長（小宮利夫君） 以上で15番議員山中金治郎さんの質問を終わります。

次は、21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 質問の前に、一言市長選挙の結果について申し上げます。

去る11月13日に行われた市長選挙において、庄司市長、あなたは市長に再選され、庄司市政2期目に踏み出されました。選挙は市民の審判であります。この結果はあなたにとってどのような結果であったと言えますでしょうか。選挙結果は、51.2%と極めて低い投票率であったことが特徴でありました。しかも、必ずしも庄司市政を支持せずということで、相手候補に5,076票が投じられました。率直に言って、この結果は、市民の信任を得たとはいえ、庄司市政の4年間について厳しい見方が市民の中に少なからずあったことを物語っていたものと思います。こうした厳しい意見を含めて、市民のさまざまな意見に耳を傾け、心して今後の市政運営に当たられることを望みたいと思います。

既に通告しました5点について御質問をいたします。

まず第1点は、境川及び代田排水路の溢水対策についてであります。境川の溢水でいつも泣かされているという方は次のように訴えておりました。ちょっとした雨が降ると、たちまち境川の水位が上がってくる。そのたびに床下に浸水してこないかと心配で、急いで高いところに夜具や家具等を引き上げる。そのため、雨が降り出すと気が気でなくて、一目散に家に帰ってくる。とてもよそに行っていられない。雨のたびに泣かされている。何とか早くこういうことの心配をしなくて済むようにしてほしい、こういうことでありました。こうした方々から本議会にこの境川及び代田排水路の溢水対策を進めてほしいという趣旨の請願書も提出されたところであります。

境川は長須賀通りのNTT館山支店のわきを流れて汐入川に合流している汐入川の支流であります。南町の蛭子神社のところまでは県が管理する2級河川となっております。それより上流は市で管理する普通河川であります。この境川には南町排水路や代田排水路、中央排水路、長須賀排水路など、市街地を形成する北条、長須賀地区の重要な排水路の流出先となっておりますし、安布里、山本、大網等、広大な農業地域の用水路の排出先にもなっています。境川は市街地を含めて広大な流域面積を持つ河川であります。

水田は雨水を一時貯水する遊水地としての機能がありますが、これが埋め立てられた市街地では、雨水が一気に排出されるため、少しの雨でもいわゆる都市型水害が頻発することになります。この20年ほどの間に市民センター周辺や熊野神社の東側地区やコミュニティセンター周辺など、この境川の流域が急速に造成され、市街地化してまいりました。このため、雨水排水に境川の流下能力では十分に対応できなくなってきたのであります。排水能力を考慮せずに水田を宅地化し、市街地化を進めてきたツケが出てきたのであります。都市計画区域といいながら、都市の基本機能を見殺した開発行為を許してきた責任はだれが負うのでありましょうか。特に、この境川の流域では、公的な開発面積はかなりのものになります。その意味でも、市行政の責任は極めて重いと言うべきであります。溢水を解消するには、境川を改修し、その流下能力の向上が求められます。

私は境川の現状について現地調査をしてみました。境川は、富士橋より下流部分は既に整備をされているところではありますが、それより上流部分の整備が行われていません。富士橋より蛭子神社に至る間の整備が求められるところであります。現況で見ますと、特にネックになっているのは境橋の下流の一部であります。川幅が見た目にも半分近くに狭まっているのであります。このため、この上流部分では溢水が頻発してありますが、逆に下流部分では全く溢水はないということでありました。また、富士橋の下で川床がおおよそ1メートルも高くなっておりました。こうした現況から判断すると、富士橋から上流部分の川底を下げて、また境橋下流部の狭まっているところを広く拡幅することができれば、境川の流下能力は大幅に向上させることができるものと思います。

そこで、お尋ねをいたします。来年から県立文化ホール建設が始まり、ますます市街地化が進みます。こうした県立文化ホール建設に先立って、境川の整備をするよう、市としても、また議会としても県に働きかけていくことが必要ではないかと思うのでありますが、いかがお考えですか、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

また、市長は庄司市長の基本政策として「快適でゆとりある生活環境都市

づくり」を挙げ、その中で中小河川の整備促進を挙げております。市長が言うところのこの基本政策にはこの境川の改修は含まれているものと理解してよろしいのでありましょうか、いかがでしょうか。

次に、大きな第2点、市が下水道事業を発注している日本下水道事業団をめぐる談合疑惑についてお尋ねをいたします。日本下水道事業団をめぐる談合疑惑が新聞で報道されました。事業団が発注する電気設備工事について、メーカーの入札業者だけでなく、下水道事業団自体が談合の結果に基づいて本命業者を指名競争入札に必ず入れるようにして、この談合に実質的に加担していた疑いが濃厚だと報道されております。

館山市は、下水道の終末処理場の建設について、この日本下水道事業団との間で建設工事委託契約を結びました。議案は3月市議会に追加議案として急遽提案されたもので、随意契約で50億円の契約金額でありました。私はこの契約金額は何を根拠にしているのか説明を求めましたが、そのときの御答弁では、実績のある事業団でございますので、私どもではその言い値といえますか、それが現在の適正な金額であるというふうに理解していますと、結局50億円が下水道事業団の言い値であることを事実上認めておりました。50億円もの巨費が下水道事業団の言い値で決められたことは重大な問題であります。しかも、今回明らかになったことは、その事業団が入札業者と談合によって工事発注を進めていたということでもあります。

建設省の公共工事積算手法評価委員会の報告書は、日本の公共工事はアメリカに比べて3割は高いと認めております。もしかしたら、本当はこの工事費は3割は安くできるのかもしれませんが、だとすれば、15億円もむだに血税が浪費されていることになります。果たして下水道事業団と交わしたこの契約金額50億円について、その金額の妥当性はあるのでありましょうか。3月市議会で全国的には同規模の事業についてどのくらいで契約をしているのか説明を求めましたが、そこまでは調査していませんということでした。改めてその金額の根拠を点検していく必要があるのではないのでしょうか。いかがお考えですか、お聞かせをいただきたいと思います。

第3点は、乳幼児医療費の無料の対象を現行の6歳未満から小学校就学前

に広げる問題についてであります。幼児の定義について、児童福祉法では小学校就学の始期に達するまでの者としていますが、市の乳幼児医療費支給条例では、乳幼児の定義を6歳未満としています。このため、例えば4月生まれの子の場合、幼稚園の年長になるとすぐ6歳になるので、幼稚園に通う幼児であるにもかかわらず、市の乳幼児医療支給の対象ではなくなってしまうます。

館山市は21年前の1973年という全国的にも最も早い時期に乳幼児医療無料を実施いたしました。当時の議事録を読んでもと、市長は本間さんでありましたが、医療の無料について、まず幼稚園までは無料にしたい、次は小学校まで、さらに将来的には中学校までというように、義務教育期間の医療は無料にしたいというのが議会での説明でありました。20数年も前の発言であります。いまだにこの医療無料についての考え方は大変新鮮であります。

さて、こうした考え方に立っていたのでありますが、できてきた議案では、この幼稚園までというのが6歳までに変えられておりました。当時は6歳までということ自体が画期的なことであったために、なぜそうなったのか、当時の議事録にはその議論が見当たりません。この条例を提案した当時の本間市長の意向としても、また児童福祉法の趣旨に沿っても、この際小学校就学までに変えるべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありますでしょうか。

第4点は、市長が選挙公約した「温かい心の通う健康福祉都市づくり」についてであります。総務常任委員会は、この10月に日本で最も老人福祉が進んだ市として有名な岩手県遠野市の老人福祉施策を視察研修いたしました。人口は2万9,000人ほどで、館山市のほぼ半分、65歳以上人口の占める割合、いわゆる高齢化率は20.6%で、館山市とほぼ同じであります。老人人口の割合で、例えば保健婦は10人とのことでありますから、ほぼ2倍、ホームヘルパーは20人ということですから、ほぼ4倍充実していることになります。在宅の寝たきり老人に対する訪問検診が医療機関と行政の協力のもとにチームがつくられて実施されておりました。寝たきりになった方に対しても検診を進めていくんだという行政の熱意とその姿勢に大変感銘をしたところであり

ます。寝たきりになっても、家族の介護負担を軽減し、できる限り在宅で暮らせるように行政が援助していこうとしているのであります。

こうした姿勢の結果は統計的にもはっきりとあらわれておりました。平成5年度の遠野市の在宅寝たきり老人は121人おりますが、同様に館山市の在宅寝たきり老人は122人であります。高齢者人口が実数で約2倍の館山市と同じ数の在宅の寝たきり老人がいるのであります。寝たきりになっても、老人病院などへの長期入院というのではなく、それだけの数の方々が自分の家で、在宅で暮らせるようしているのであります。この結果は、例えば高齢者1人当たりの老人医療費が館山市に比べてほぼ1割以上も少なくなっている所以であります。在宅福祉を充実させることが確実に老人医療費の軽減になっているからだと思うのであります。43億円にもなる館山市の老人医療費が高齢者福祉の充実によって例えば1割軽減されるとすれば、4億円も老人医療費の節減効果が生まれることになります。老人福祉の充実は、財政的にも十分に見返りの期待できるものであります。遠野市の事例はそのことを事実として語っていたと思うのであります。

さて、市長が選挙公約した「温かい心の通う健康福祉都市づくり」についてであります。具体的には館山市老人保健福祉計画の推進をうたっております。しかし、その問題点は財政的裏づけがはっきりしないことであり、そのために何年度にどこまでという年次計画もありません。財政上の問題も、中長期的に見れば、老人福祉施策を一刻も早く充実していくことが老人医療費の節減として結果的に財政的に貢献するものであることは遠野市の例で述べたとおりであります。市長は選挙の公約として老人保健福祉計画の推進を挙げたわけではありますが、具体的にこれをどのように実施していこうとするのでしょうか。選挙で公約した以上、財政の裏づけがないので実現は困難という言いわけは通用いたしません。文字どおりその実施について不退転の決意で臨むということなのかどうか、その決意を披瀝できますか、いかがですか、お聞かせいただきたいと思います。

第5点、コミュニティセンター入り口付近の交通安全対策についてお尋ねをいたします。コミュニティセンター入り口付近では事故が絶えず発生いた

しました。このため、私はこれまでこの問題をこの場でもたびたび取り上げて市の対応をただしてまいりました。来年1月にはいよいよ県立文化ホールの建設工事が始まろうとしております。現在のコミュニティセンターの利用者ばかりではなく、工事関係の車両の出入りも急速に多くなってくることが懸念されるところであります。現況のもとでそうした事態が想定されると、大渋滞や大きな事故が心配されます。一刻も早く変則的な現在の交差点の改善をしなければなりません。市はコミュニティセンター入り口の交通安全対策についてどのような見通しと対策を持っているのでありましょいか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（小宮利夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、境川及び代田排水路の溢水対策についての御質問でございますが、境川につきましては、流域流量調査及び改修整備をただいま千葉県に要望しているところでございます。今後も引き続き積極的に働きかけてまいりたいと考えております。なお、この河川は館山市の中小河川整備促進の一河川として位置づけております。

大きな第2、館山市が下水道事業を発注しております日本下水道事業団をめぐる談合疑惑についての御質問でございますが、現在問題となっておりますのは下水道工事の中の電気工事でございます。これにつきましては公正取引委員会が調査中とのことでございまして、現段階でのコメントは差し控えさせていただきます。

大きな第3、乳幼児医療費の無料の対象を小学校就学前までに拡充することについての御質問でございますが、乳幼児医療費支給事業につきましては、昭和48年10月、県下の市町村に先駆け、6歳未満を対象として実施したものでございます。千葉県内での実施市町村の支給対象年齢につきましては、1歳未満、3歳未満、就学前、このようなところがございまして、館山市いたしましては、現在拡充の方向で検討中でございます。

次に、大きな第4、老人保健福祉計画の推進についての御質問でございますが、各種保健福祉サービス事業につきましては、現行制度の拡充を図るとともに、新しい事業についても検討してまいりたいと考えております。また、施設整備につきましては、安房地域老人保健福祉圏域施設整備計画に基づきまして検討してまいります。財源の問題につきましては、国、県の補助制度の拡充などを要望しておりますが、さらに平成8年度からの千葉県総合5カ年計画の中での位置づけをことしも要望したところでございます。

次に、大きな第5、コミュニティセンター入り口付近の交通安全対策についての御質問でございますが、県立南地域文化ホールのくい工事が平成7年1月中旬以降に予定されているところでございます。このため、特にコミュニティセンター入り口付近の安全対策につきましては、千葉県に対し十分な対応がなされるよう要請しているところでございます。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 境川、代田排水路の関係ですけれども、県に要望をしているということでもありますから、その見通しについてどういうふうになんか考えられておるのか。というのは、これは県立文化ホールがつくられるという時期との問題ですね。当然これの排水問題、駐車場をめぐる排水問題、こういうことで、この境川の流域の開発がこの時期に急速に進むということでもありますから、そういうこととの関連で、時期的にもそう悠長なことを言っていられないんじゃないかなという点がありますので、その辺は見通しについてどういうふうにお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思っております。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 境川の改修の見通しということでございますが、国道410号バイパスが境川の流域の大きな部分を占めます代田排水路の流域を分断するわけでございます。この分断された集水区域、これは山側になりますが、このものについて、410号の整備にあわせて流域変更で流量の減少を図ってほしいというのともあわせて要望してございまして、現在県の方では

いつという確約等、そういうものはいただいてございません。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 県立文化ホールという、そういう県の施設がつくられるという時期だけに、県としても、こうしたことの結果、周辺への溢水がますますひどくなるということは、やはり県の立場としても非常に困ることだろうということになろうかと思いますので、こういう時期ですから、境川の改修ということについて強力にやはり市としても申し入れをしていただきたいなと思うんですが、そういうことで今後の対応をお願いしたいと思うんです。

下水道事業の問題ですけれども、この問題については電気設備工事にかかわる問題というふうにお答えがあって、したがって館山市では直接関係ないように受けとめられるようなあれでしたけれども、問題の核心は日本下水道事業団が談合に荷担していたということなんです。電気設備メーカーの談合によって本命業者を決める。本命業者を必ず指名業者の中に入れることによって、その談合の結果がめでたく結実するように便宜を図っていたといったことにこの問題があったわけですから、したがってその日本下水道事業団が電気設備工事以外はやっていないという保証は全くないんです。やっているというふうに見る方が当たり前だろうと思うんです。日本で1,100カ所ですか、この日本下水道事業団が関係している公共下水道事業があるわけです。これは非常に社会的には重大な問題なんです。単にこれは電気設備工事だからということで、ほかには関係ないという問題ではなくて、日本の下水道行政全体が大変な問題点を持っているというふうに私は思うんです。その辺についての受けとめ方としてはどうなんですか。今調査中だから何ともコメントできないということですが、具体的な問題でのコメントは大変難しいと思いますけれども、こういう事柄が起きたということは、館山市の公共下水道の問題について非常に大きな問題点を感じているのかどうか、下水道の事業の発注のあり方について、その辺いかがですか。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 私どもでもやはり事業団等に問い合わせをいた

しましたところ、そういう事実はないという返事が返ってきてございます。ただ、こういうもので、今後の推移の中で違う場面が出てきた場合につきましては、やはり当然国庫補助2分の1以上、国費でございますので、千葉県あるいは建設省等の指導等によりまして対処をしてみたいというふうに考えております。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 日本下水道事業団に問い合わせれば、ないと言うのは当たり前ですから、それは当然のことだろうと思うんです。

お尋ねしたいんですけれども、今回館山市が50億円の委託工事契約を結んでいるわけですが、市長の説明によれば、第1期工事の終末処理場の水処理施設、7,100トンの能力がある水処理施設、それから污泥棟、管理棟、こういう建設工事で50億円ということでありまして、それぞれについて幾らなんですか。この50億円の明細はどういうふうになっていますか。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 50億円の内訳でございまして、細部の細項目につきましては、やはりこれから入札等があるかと思っておりますので、大項目の金額でのみ申し上げます。

まず、土木建設工事、これにつきましては27億7,000万でございまして、その内訳といたしまして、水処理施設基礎工、管理棟工、水処理施設、污泥処理施設、水処理施設覆蓋工、マンホール、ポンプ、場内整備。次に、機械工事でございまして、7億9,500万、この内訳といたしまして、水処理機械設備工、污泥処理機械設備工。次に、電気工事でございまして、これは12億円でございまして、内訳といたしまして、変電設備工、自家発電設備工、水処理運転設備工、污泥処理運転設備工。管理費が2億3,500万円でございます、トータルで50億でございます。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） そういたしますと、この委託内容の50億円のそれぞれの内訳について、同様の規模の公共下水道工事を発注している――日本

下水道事業団ではなくて、日本下水道事業団以外のところで — 恐らく政令指定都市や何かでは自分のところでやっていると思いますから、そういう実績との比較検討というのは十分可能だろうと思うんですが、そういうことをおやりになるお考えはありませんか。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 他市町村との比較ということでございますが、現在工事費の積算につきましては、建設省から出されております積算基準というのがございます。それに基づきまして、各都道府県に地域の実情に合った積算基準というのがございます。したがって、そういうもので条件が同一であるとすれば、全部がイコールになろうかと思えます。

ただ、当館山市の処理場につきましては、特殊条件というのが6点ほどございます。まず第1の大きな条件でございますが、塩害飛砂 — これは砂でございますが、そういう臭気等のために二重覆蓋をする、あるいは上部を利用するというのがございます。それと、2点目といたしまして、沈下、特にこの地域は地下水位が高うございますので、液状化対策といたしまして、地下20メートルのところの支持層まで基礎ぐいを打つ。それから、3番目といたしまして、CODの総量規制。これは、この地域が東京湾流総地域でございます。そういう中で、窒素、磷の規制基準ということで、これから環境庁等によりまして相当の規制が出てくるだろう、そういう打ち合わせの中でございます。こういうために、高度処理が可能な型式というのを取り入れてございます。それと、あとは町並み景観に合ったものだとか、あるいは平久里川の改修等を想定したものだとか、工事中に地下水の低下、そういうものがないようにということで、通常ですと排水を多くするわけでございますが、この場合は矢板で締め切りまして工事をするというようなことで、このような特殊工法をとってございますので、各市町村との比較は非常に困難であるというふうに考えております。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） そうすると、結局は市としては他の公共下水道と

の工事費の比較、これはやらないと、今の御答弁ですと、いうふうに受けとめるんですけども、これは実際はかなり技術的な問題があらうかと思いますけれども、しかしながら、これだけ大きな疑惑が今持たれている中で、果たして日本下水道事業団の言い値でやってきたということについて、それが正しいものであったのかどうなのかという、そういう疑惑を全く持っていないというふうに理解せざるを得ないんですけれども、そういうことなんですか。全然疑いもしない、こういうことなんでしょう。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 先ほど申し上げましたように、国、県等で示されております標準歩掛り等の中での積算でございますので、そのようなことはないというふうに私どもは確信をしております。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 問題は、国、県の基準が示されて、そして行われていた工事発注の中で談合があったということなんです。これは電気設備に関してですけれども、同じじゃないですか、全く。ですから、今の答弁ではなかなか私は納得できないわけで、日本下水道事業団以外の工事についてもやはりきちんと比較検討するというのが私は大事だと思うんです。

これは非常に規模の大きな金額ですから、今回50億円ということでしたけれども、全体としては日本下水道事業団と館山市として工事の委託契約を結ぶというのは、将来的にはどのくらいの規模になるというふうに考えたいですか。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 現在の第1期工事について50億でございますが、将来的なものについてはまだ算定——超概算でございますので、第1期工事分が50億ということでございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 具体的な金額はなかなかあれですけれども、将来的にいけば、200億、300億ということも考えられるような話じゃないんで

すか。いかがですか。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 超概算ではそういうことも考えられます。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） そういう非常に大規模な金額を伴うもので、この下水道事業の中で談合が発生して、その結果、住民が結局は負担する、こういう形で、被害は我々に来るんです。3割もこの中で談合の結果値が高くなっているんだというようなことになれば、これはもう大変な問題なんです。ですから、これは厳しく見ていって当たり前なんです。ですから、今回出てきた電気設備にかかわる談合の問題は、これを契機にして、やはり市の公共下水道のこの日本下水道事業団への発注の価格について——これは確かに館山市だけという問題になかなかいかないというのはよくわかります。日本下水道事業団に全国1,000カ所も発注しているわけですから、同じ基準があるんでしょう。しかし、全国の市町村が黙っていたらだめなんです、こういう問題は。それぞれ声を上げていかなきゃ、これはおかしいんじゃないか、この点どうなんだということをどんどん声を出していかなければ、こういう体質は改まりません。私はそう思うんです。これはもう日本の下水道事業全体に係る大問題、その一翼を館山市も担っているんだという、その辺の自負を持ってやはりこの問題についての対処をお願いしたいと思うんです。それは館山市の財政にとっても非常に大きな影響をもたらす問題だ、こういう認識に立っていただきたいと思うんですけれども、いかがですか。

◎副議長（小宮利夫君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 議員さんのおっしゃるとおりでございまして、ただ、これからやはりどういう推移になるかわかりませんが、その中で私どもも、二度とこういうものがあっちゃならんということで、要望等をしてまいりたい、そういうふうに考えております。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 非常に金額も大きい、自身の財政への影響も大き

い問題だけに、今後の対応ということで、市もしっかり考えていただきたいなというふうに思います。

次に、乳幼児医療の無料の対象をということですが、拡充の方向で検討するという御答弁でしたから、一応それで受けとめるんですけども、今回図らずも入院の問題で、入院給食費の助成ということで、乳幼児医療の条例の改正が出されているわけです。それで、この問題では県の補助金の対象になるということですが、県の補助対象はどのようなになっておりますか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 今回の条例で提案しております食事療養費の関係でございますけれども、これは県の助成、そういったことは関係ございませんので、別の問題でございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 市長の提案説明では、県の助成になっているというふうに書いてありました。入院給食について、入院の給食費の助成は県の助成の対象になって、そしてそういう財源の保障もあって、市としてもやるということで、そういうふうに私は読んだんですけども、私の読み間違いかしら。そちらの勘違いじゃないかと思うんですけども。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 訂正をさせていただきます。

今回提案しております食事療養費の関係でございますけれども、県の助成がございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） そこで、県の助成対象、入院の場合、これは6歳未満という形で対象になるのか、小学校就学前ということで対象になるのか、県の規定はどうなっていますか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 対象範囲は就学前でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 今度の入院の補助が県の規定では就学前というふうに対象になっているのに対して、市は6歳未満。4月生まれの子の場合、ほぼ1年間にわたって、県の支給では対象になるんだけど、市の条例で対象にならない、こういう矛盾が出てくるわけです。こういう問題点が出てくるんだと思うんですけれども、県の支給は市が支給した場合にそれを補助するということですから、結局就学前という県の助成があっても受けられない、こういうことになると思うんですが、その辺大変矛盾があるんじゃないかなと思うんですけれども、いかがですか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この対象の範囲ということで、年齢的な差はございますけれども、現行のこの食事の助成につきましては就学前というところの方をしているわけでございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 実際の運用の問題でどうやってやるかということも考えなきゃいけないというふうに思いますけれども、一応市の条例では6歳未満というふうにあくまでもうたっているんです、対象を。運用でやれるのかなということで見たんですけれども、結果的には、第4条の3ですか、市の条例では6歳に達する日の属する月までとするというふうに条例ではっきりうたっちゃっているものですから、条例を直さないことにはだめなんです。今回せっかく条例を提案した中で、前向きに拡充の方向で検討ということであったんですけれども、来年の4月、年度のかわりあたりをお考えになっているのかなと思うんですけれども、この際思い切って、現在提案されている条例の修正も含めてお考えになりませんか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 予算の関係も絡みがございますので、今後御意見を伺った上で検討してまいりたいというふうに考えております。

◎副議長（小宮利夫君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 実施の時期でございますけれども、これから検討するんじゃないくて、既にこれを変える必要があるなということで検討はしておりますので、来年4月から変えようという準備をしているところでございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 思い切って一緒に——一たん提案した条例を自ら修正するというのは大変なことだと思うんですけども、10月1日にさかのぼって実施という今回の条例の趣旨から、一気にやった方がいいんじゃないかなというふうに思いますので——それは私の意見ですけども、受けとめていただきたいなと思います。

次に、第4点目の「温かい心の通う健康福祉都市づくり」についてでありますけれども、市長さんは選挙の公約の中でも非常に重要なテーマとして老人保健福祉計画の推進という問題を挙げたわけで、このことは大変重要なことだというふうに私自身も認識をしているわけです。

先ほど遠野市に行った、そういう視察の状況等に発言の中で触れましたけれども、遠野市ではヘルパーの保障について館山市と大分違うんです。第一線といいますか、老人福祉の第一線で頑張っているというのはやっぱりヘルパーさんということになるろうかと思うんですが、非常に若い方々がどんどんヘルパーに応募してくる。ここでは准看護学校があるものですから、この卒業生など、いわゆる看護の資格のある、そういう方を積極的にヘルパーとして雇用しているんだ。したがって、私のまちのヘルパーさんは、家事援助型というよりも、むしろ介護型、これを想定してどんどん拡充を図っているんだ。確かに20人からのヘルパーを館山市の半分の人口のまちで抱えているわけです。これにかかわる給与等についても、館山市に比べると3倍ぐらいの——ヘルパーに関して年間6,000万円ぐらいお金をかけていますから、非常に身分保障もされて、介護の質も大変高いものを実現しているということで、非常にすばらしいなと思ったわけです。

顧みると、館山市の場合には、一応現在12人ですか、ヘルパーさんがおる

というわけですが、このヘルパーさんの内実としては、いわゆる介護型のヘルパーというのにはなかなかいないんじゃないか。また、そうしたヘルパーさんを積極的に雇用していくという姿勢もどうも市の中に感じられないなというふうに思うんですけれども、こうしたヘルパーを老人福祉計画では54人にするという目標を掲げてはいるんですけれども、どういうふうにその身分保障、その内容を考えて今後いこうとするのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ヘルパーのこれからの人材確保という問題でございますけれども、計画では確かに54名という目標を立てております。これを年次的にどのように確保していくか、さらにはその雇用体制、こういった問題を含めて検討していかなければならないという問題ですけれども、常勤ですべてという考えがありますけれども、ボランティア的な人材確保ということも含めてこれから検討してまいりたいというふうに考えております。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） そっちに流れちゃうんじゃなくて、今の館山市の現況は、そのボランティアがというよりも — ボランティアをやるのも結構なんですけれども、それは常勤のしっかりとした体制のあった中でこそ、またボランティアも生きてくるんであって、館山市の場合、いわば介護の中核を担う人材の育成という点で必ずしも成功していない。むしろ非常にその辺について問題があるんじゃないか。非常に若手で、看護婦の資格を持っているとか、あるいは介護士の2級を持っているとか、そういうような方々をどんどん雇用していくという方向を持たないと — そういう方をやはり雇用していくには、常勤という身分保障をしっかりとした中で考えないと、なかなかこれはできないんじゃないかと思うんです。館山市のホームヘルパーの体制の問題で、やはりそうした身分保障を中心とした質の高い介護というものの中核をどうつくっていくかというのが今求められていること、今一番緊急に求められていることではないかなという認識を持つんですけれども、いかがですか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） これからのこのヘルパーの人材確保、その前提の上でこれから考えていかなきゃならないのは研修、人材確保の上の事前の研修、そういったことも含めましてこれから質を高めていく。その上で人材の確保を行っていくということがこれからの大きな課題だろうと思います。そういったことで、今現在でもその人材確保の上での研修、それをやっておりますけれども、そういった面での拡大といいますか、そういった事業を含めて養成をし、そして質を高めて、その上で人材確保をしていくという過程がこれから必要になってこようかと思います。そういったことでこれから取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 今ヘルパーにかかわる費用を市では幾らかけていますか。年間予算で約2,000万ぐらいじゃないかなと思うんですが、いかがですか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ただいまの御質問の経費につきましては、資料を取り寄せますので、その上でお答えしたいと思います。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 先ほどの遠野では年間約6,000万この老人のヘルパーに使っているんです。館山市が私の計算では約2,000万ぐらいじゃないかなと思いますから——人口は半分です。老人の数も。そういうところで館山市に比べてヘルパーのお金を3倍使っているんです。余りにも館山市のヘルパーの金の使い方の少ないのに私は愕然とした思いだったんです。これは市長さんも、財政の運営の問題をめぐって、財政的に見て、このヘルパーの問題については相当予算的にも今後拡充していかなきゃならない、また充実していかなきゃならない分野だ、こういう認識を持っていただきたいと思うんですが、その辺いかがですか。

◎副議長（小宮利夫君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 老人保健福祉計画につきましては、これは絶えざる前進ですから、じっくり検討し、介護、福祉、医療等を総合的に検討していきたい、こう考えます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 絶えざるというか、もうここで飛躍しなきゃいけないというか、そういう時期に来ているということで、今までと違った思い切ったやはり発想でぜひ取り組んでいただきたい。

コミセンの問題でありますけれども、安全対策を県に要請中ということでありますけれども、この問題は住民も非常に困っている問題だけに、市の敏速な対応をぜひお願いしたいということで、終わりたいと思います。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 先ほど御質問がございましたヘルパーに対する費用でございますけれども、約 2,200万円でございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 以上で21番議員神田守隆さんの質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時08分 再開

◎副議長（小宮利夫君） 午後の出席議員数21名、休憩前に引き続き会議を開きます。

7番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 今議会の最後の質問者となりますので、しばらくの間よろしくおつき合いのほどお願いいたします。

私は通告をいたしました8点についての御質問を申し上げます。今議会は庄司市長の2期目を迎えての初めての議会ですので、庄司市長が選挙で訴えてこられたことを若干織り込みながらの質問とさせていただきます。

まず第1点目の質問ですが、庄司市長も市長選で訴えておられました市民の最も願っている問題の1つとしての医師会病院の充実と建てかえについて

でございます。市民が今一番願っているということはだれもが認識をしていることではありますが、過去に議会において何度となく総合病院を建ててほしいという要望がされたことは御承知のとおりでございます。平成4年の7月に安房地域保健医療計画にも安房圏域の自治体や住民の要望に応えることが急務であるとして指摘をされておりました。そんな中、関係者の方々の御努力により、医師会病院の建てかえが具体化をしてきたことは、新聞報道もされましたので、広く住民の知るところとなりました。私ども議員も安房医師会からの説明を受けるなどの機会があり、拝見をしたところ、どうも市民が望んでいるものとは若干の違いがあるのではないかという気持ちを持ってしまった内容でありました。

文教民生委員会では、この計画を大変重要な問題と考え、たたき台とされたと言われる岩国市医療センター医師会病院を視察してまいりました。建物は意外と小さいという印象を受けましたが、主に病院建設に際しての資金面を重点に説明を受けてきたわけですから。医療機器、設備もそれなりに設置はしてありました。約17万人と言われる圏内に国立病院が1つあるだけということで、このセンターができたおかげで市民が大変喜んでいるというお話もお聞きしました。

そこでお尋ねをいたしますが、建てかえをしようとしている安房医師会病院の計画の進みぐあいはいかがでしょうか。また、改めてお聞きをいたしますが、住民が医療機関に対しての一番要望している姿はどういうものだとお考えになっていきますでしょうか、お尋ねをいたします。

次に、2点目の質問に移ります。家庭で介護を受けている方々に対しての歯の検診や治療のケアができないかどうかを伺ってまいります。在宅で介護を受けている方にとっては、保健婦さんの訪問などで内科的な問題は若干のケアができておりますが、歯の治療などに関しては全く手がつけられていないのが現状ではないかと思えます。助けをかりれば何とか自力で歯医者さんに行ける方はよいのですが、動きのとれない人ほど歯の治療に関しては望んでいるのではないのでしょうか。例えば、歯医者さんに行けないために入れ歯を外したまま食事をしている人、虫歯が痛んでも治療ができずに困っている

方がいらっしゃる。そういう方のために、福祉サービス事業の中に歯の検診、また治療を織り込んでいただけると助かる方が多くいらっしゃることを指摘して、ぜひ取り組んでいただきたいと願います。この問題について市はどのようにお考えになるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、3点目の質問をいたします。ホームヘルパーの方の移動に際して、足の確保は足りているのかどうか伺ってまいります。せんだって市内の方が、ヘルパーさんに大変お世話になったからと、移動用の自動車を寄附されたということをお聞きいたしました。ホームヘルパーの方は、1日に何軒ものお宅を訪問し、要望のある仕事をしなければならないわけです。買い物をしたりしているわけです。商店に近いところだけであればいいのですが、商店から遠く離れたお宅に行くこともあります。通常の移動はどのようにされていて、その移動車数は十分足りているのでしょうか、お答えをいただきたいと思います。

次に、4点目の質問に移ります。小中学校で現在行われております友情の絵はがきの取り扱いについて伺ってまいります。ことしで42回目となる友情の絵はがきは、子供たちの助け合いの醸成と豊かな心を育てるために始めたとお聞きをしております。財団法人千葉県肢体不自由児協会が県の義務教育課をお願いをしたものが各地域の教育委員会を通じて各小中学校に配られるということだそうですが、絵はがきは3枚1組か2枚1組で80円以上ということをお願いをしているということを聞いております。この運動を始めたときの趣旨はよく理解できますし、子供たちもお小遣いの中から買える金額であるということで、強制的ではないということもあり、よく利用されているということをお聞きいたしますが、一方、強制的ではないと言われながらも、残ってしまうと、現場の教員が義務感を持ってしまって、教職員が残りの絵はがきを買っているということもあるということをお聞きいたしました。せっかくの子供たちの心を育てるのが目的とされた運動ですから、強制的でないとするれば、余った絵はがきは返すという方法で取り扱ってほしいと思っておりますが、友情の絵はがきの取扱いはどのようになさっていますか、お答えをいただきたいと思います。

次に、5点目の質問に移ります。パートで働いている学校用務員の身分保障についてお伺いをいたします。現在市内の小中学校で働いている用務員の方は正職員の方とパートの方が働いておりますが、働いている内容などはどちらも同じなのでしょうが、パートで働いている人が正職員よりも多くいると伺っております。正職員とパートの人数はどのようになっていますでしょうか。また、パートの勤務時間や賃金など、労働条件など、どういう状況で働いているのかを具体的にお聞かせをいただきたいと思います。

次に、第6点目の質問に移ります。雇用対策について伺ってまいります。この問題については過去に質問をしておりますので、再度の質問ということになります。市長の公約の1つとしている工業団地建設が市の将来の雇用の場の確保であることは明らかにされているところですが、前回も申し上げましたが、現在市内にある企業が毎年のように行っている合理化により、今回も多く、遠距離通勤者や転出者がまたまた出てまいります。市内では、多くの労働者が働いているN T Tの職場では、単なる転勤ではなく、職場縮小や廃止などで、家族を含めた大人数の人が転出をしていくことになっております。以前は多くの労働者が働いていたが、まさに気がついてみたら半分以下になってしまっているというのが今の状況です。こういうことが毎年のように行われていることに対して、単なる企業の問題だからと何もしない、言わない行政の姿勢については、がっかりしたり、何とか一緒をお願いをしてくれないか、さまざまな声があります。市当局はこういう実態があることを、働く人たちがこういう状況に置かれていることを承知をしているのか。工業団地で働く場の確保をすることは当然のこととしても、現在の雇用の場の対策についてどのように対応しているのか、お伺いをいたしたいと思います。あわせて、工業団地の進捗状況もお聞かせを願いたいと思います。

次に、第7点目の質問に移ります。J Rと行政のかかわり方について伺ってまいります。市長の公約にもあるとおり、館山駅の橋上駅舎の建設ですが、市の玄関口としての駅舎が計画をされていると思います。私たち住民の生活するための足としてのJ Rの列車は、地域住民にとってはなくてはならないものであります。民営化をされたといっても、その性格上、J Rの列車には

公共性があることは当然であります。

11月7日に私はＪＲの千葉支社に対して何点かの申し入れを行ってまいりました。その内容は、これ以上の列車削減をしないこと、駅の無人化を進めないこと、駅舎や駅構内の構造を高齢者や障害者が利用できるよう整備すること、乗客の安全性を第一に考え、安全性については特に注意を払うこと、こういうことを中心に、約２時間にわたり話し合いをしてまいりました。その中でＪＲと自治体とのかかわり方についての議論もいたしてきましたが、ＪＲ千葉支社は、駅の無人化や駅舎建設などに際しては地元の市町村と十分な話し合いを行っているという回答をいただきました。

そこでお伺いをいたしますが、橋上駅舎建設計画を抱えた館山市としてはＪＲとどのようなかかわり方をしているのでしょうか、計画の進捗状況もあわせてお答えをいただきたいと思います。

最後に、第８点目の質問に移ります。この質問も庄司市長の選挙公約に入っておりました通年型観光を目指した市民参加の花のまちづくりをするということですが、現在行っている花のまちづくり運動とは違ったものとお考えなのか、具体的にどういったことをしようとしているのか、お尋ねをいたします。

以上、８点にわたり質問をいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（小宮利夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きな第１、医師会病院の充実と建てかえについての御質問でございますが、現在安房医師会におきまして、地域の中核的病院として、救急医療を含めた施設の整備充実について組織的に検討を進め、過日第１次案が発表されたところでございます。

大きな第２、在宅高齢者や在宅障害者に歯の検診や治療のケアができないかとの御質問でございますが、現在寝たきり老人の歯科検診を初めとする保

健事業について安房歯科医師会と協議しているところでございます。

大きな第3、ホームヘルパーの足の確保についての御質問でございますが、派遣世帯の地理的条件及びサービス内容等を考慮しまして、自動車、バイク、自転車等を必要台数確保しているところでございます。

友情の絵はがきの問題、それから学校用務員の問題につきましては、教育長より答弁申し上げます。

雇用問題につきましては御質問でございますが、雇用環境については、依然全国的に厳しい状況下でございます。館山市におきましても、館山公共職業安定所や安房地域雇用協議会と連絡を密に、雇用の促進を図っているところでございます。

また、館山工業団地の進捗状況でございますが、現在区域内の土地につきましては約96%が取得済みでございます。一方、工業団地の進入道路となる市道8042号線の整備につきましては、団地側の1キロメートル区間等について用地取得を進めているところでございます。

大きな第7のJRと行政のかかわり方についての御質問でございますが、館山市といたしましては、千葉県JR線複線化等促進期成同盟、この組織を通じまして、ダイヤ改正や路盤改良等をJRに要望しているところでございます。また、館山駅橋上駅舎建設につきましては、定期的にJR千葉支社と協議を行っているところでございます。

次に、大きな第8、市民参加の花のまちづくりについての御質問でございますが、花のまちづくりは、クリーン・アンド・ビューティフル運動の一環として、多くの市民の参加により、公共施設、地区花壇等への植栽など、その運動を展開してまいりました。今後さらに花の輪を広げ、ボランティア活動への支援あるいは地区花壇等の増設を図るなど、市民参加によります花のまちづくりを積極的に推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

大きな第4、小中学校で行われている友情の絵はがきの取り扱いについての御質問でございますが、これは財団法人千葉県肢体不自由児協会が手足の不自由な子供のための療育活動資金確保と愛護思想の普及のため実施している募金活動でございます。この絵はがきは市内各小中学校に学校規模に応じて配付されておりますが、各学校では、この募金運動の趣旨を生かし、福祉教育の一環として児童生徒に協力を依頼しているところでございます。

次に、大きな第5、パート学校用務員の身分保障についての御質問でございますが、現在学校用務員13名中11名が臨時職員でございます。昭和50年代後半から、臨時職員で処理できる業務内容であるとの考えにより、退職者の補充を臨時職員で対応しております。勤務時間につきましては午前8時30分から午後5時15分まででございますが、勤務時間に即した賃金を支給するとの考え方により、平成6年度から時間給で支給しております。なお、休暇につきましては、市の規則によりまして年次休暇を消化しております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） それでは、再質問をさせていただきます。

医師会病院の件なんですけれども、答弁がいただけていませんのでお聞きをいたしますが、市民の、住民の病院に、医療機関に対する本当の要望はどこにあるのかということを再度お聞きをいたします。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 医師会病院の早期建設と整備の充実を図ってほしいという要望は前から市民から強い要望として出てきております。こういった地域の医療体制の確保、これは行政、私どもにとりましても重要な課題ということで認識をしているわけでございます。ただいま安房医師会ではそういった建設に向けての計画を協議しているというふうに伺っておりますので、早期の進展を期待しておりますところでございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 今の答弁では全く納得できないんですけれども、市

民の意識とのずれがやっぱりそういう答弁の中にあらわれていると思うんです。端的に言えば、市民は亀田病院のような病院が欲しい、これだけじゃないですか。

そこで、私もこの間このことについてかかわってきて初めてわかったこととして、2次医療機関、3次医療機関という言葉が出てきて、私は勉強不足で大変申しわけなかったけれども、何だろうなということを考えたんですが、そちらの認識で2次医療機関、3次医療機関の違い、どういうふうにお考えになっているのでしょうか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 医療体制につきましては、診療所といいますか、第1次、そしてさらには第2次の救急基幹センターを備えた病院、そしてさらには第3次体制に入りますと救命救急センター、そういった医療体制が組まれているわけでございます。今回の医師会で検討しております内容につきましては、第2次の救急基幹センター、中核的医療機関といいますか、そういった内容で検討しているというふうに伺っております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） まさに救急救命なんです。市民が望んでいるのは救急救命なんです。これから建てかえようとしている安房医師会病院は2次医療機関ですよ。そういうことの違いを結構知らないでいる方が多いということが改めて私もこの間わかりました。端的に言えば、2次医療機関であれば、何が今と変わるのかなということを言う方もいらっしゃいます。確かに地域保健医療計画の中にもありましたように、県はこの問題について十分地域性とか住民の要望について認識をしたというのがあの文書の中にあらわれていたと思うんです。そういうものが、総合病院のようなものが必要だということがはっきり書いてありました。ただ、医師会病院の説明の中でもうたってありますけれども、この地域には亀田病院があるから、経営上のことですとか、そういうことを考えてしまうと、亀田病院と同じような病院をここに建てるのは財政上困難であるということなんだろうと思うんですが、そ

れだったら — 救急救命に関してのことが、手だてができないのであれば、何も変わらないんじゃないかというのが率直な多くの市民の意見です。

あと、問題があるんですけれども、私がこの間視察に行った病院もそうだったんですが、岩国医療センターですか、同じなんです、医師会病院ですから、紹介がなければ受けられないんです。こういった問題はどのようにするかというふうに思うんです。例えば、救急で行った場合、紹介がなければ受けられないのか。あるいは、逆紹介というんですか、とりあえず受けておいて、逆紹介ができるようなシステムになっているのかどうなのか。いつでもどこでもだれでもが受けられる病院でなければ何にもならないということなんです。その辺はどうなんでしょうか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 先ほどお話ししましたとおり、第2次の医療機関、医療体制、これは救急が主眼となろうと思います。そういったことから、救急車により直接施設の方へ送られるという体制は当然のことだろうと思います。そういったことで、この医療体制 — 救急基幹センターの機能を十分に果たせるような、そしてさらには、今医師会で診療科目として取り上げております科目にさらに幾つかの診療科目が加わるといったことで — これは素案でございますけれども、そういったことで伺っているところでございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 改めて申し上げますが、市民の要望が救急救命であるということで、再度ここで言うておきたいと思います。今までこの問題は多くの場で議論されてきておるんですけれども、それだけ住民の関心が高いということだからじゃないかと思うんです。先ほども申しましたように、県もこの地域の要望をよく知っているからああいう医療計画の中にうたわれたんだろうというふうに思っております。

私は病院ができることには本当に願っていたことですから賛成するんですが、せっかくつくる病院ですから、ちゃんとした市民の要望どおりのものを

つくってほしい、それだけなんです。でき上がったけれども、結局使いにくい病院になってしまっていたというのでは困るということなんです。それを改めてここで申しておきたいと思います。例えば、この病院ができたとして、救急で来て、検査をして、手術対応ができずに、結局鴨川の亀田病院に運ばざるを得ないというような状況も多々出てくるわけです。そういったことになれば、何のための病院なんですかと思わざるを得ないのは当然でしょうと私は思います。確かに財政上の問題や地域特性の問題などがありますが、けれども、この地域は交通の便が非常に悪いです。交通網の整備ができていません。そういった整備なども含めて、この地域の特性は机の上の単なる計算だけではやっていけないんだということをもっと県の担当者、県の関係機関に対して要望をしていくということをお願いしたいというふうに思います。でき上がってからでは遅いということを再度ここでつけ加えさせていただいて、今後この問題についてよくお考えになっていただきたいというふうに思います。

項目が多いですから続けてやりますが、2番目の歯の検診なんです、安房医師会病院の方と検診については協議中であるというようなことですが、安房医師会病院が検診に関して、それこそ全国的に本当に力を入れているということは、もうこれは御承知のとおりでございます。そういった検診システムについては認めるんですが、できればその治療をしてほしいというのが念願なんです、その一方として検診を協議中であるということですので、今後検診から次の段階の治療ということも含めて考えていけるんじゃないかというふうに私はこの答弁の中から思ったんですが、治療について少しは期待をしていいんでしょうか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 市長からお答えしましたとおり、今前向きに検討しようということで行っているわけでございますけれども、初めての経験です、はっきり言って。これから実際にやってみた上でどうなのか、そういったことを考えますと、まず検診に主眼を置いてやっていこう。場合によっては、ケースによっては応急措置ということも出てこようかと思えますけれ

ども、当面は検診という体制で持っていく必要があるかな、検討中でございますけれども、そういった考えを持っております。

◎副議長（小宮利夫君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 安房医師会ではなくて安房歯科医師会ですから、これ歯の方でございますので、よろしくひとつお願いいたします。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 検診をなさって——当面ということですから、当面がどのぐらいの期間になるのかちょっと不安なんです、やっぱり検診があったら治療はセットです。治療はなるべく早急にやっていただきたいというふうに思います。

これは皆さん認識していると思うんですけども、私たちの周りの歯医者さんというのは非常に階段が多かったり、段差が多いところが多いんです。そういったところというのは非常にお年寄りには利用しにくい、障害者には利用しにくいということになってしまいますので、そういったことも含めて、以前歯科の問題についてはちょっと触れたと思うんですけども、移動車で歯の治療を行っているという自治体があったというふうに認識をしております。場所についてはちょっとこの場で失念してしまいましたが、どこかの機関を通じて、こういった先進的に行っているような地域を参考にしながら今後考えていただけないものかというふうに、この件については前向きに検討していただけるようなので、要望をしておきたいと思います。

次に、3番目のホームヘルパーの問題なんですけれども、必要台数は確保しているというようなことなんですけれども、実際に移動している車、バイク、自転車、それとヘルパーさんの人数、この数をお聞かせください。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 現在のホームヘルパーは12名配置をされているわけでございます。この12名のヘルパーの活動ということで、活動しやすい体制ということで車等の配備をしているところであります。訪問先に応じまして、現在軽自動車3台、バイク4台、そして自転車を8台活用しております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 台数はわかったんですけども、これはヘルパーさんだけのための車ですか。バイクですか。自転車ですか。ちゃんとこれは動きますか。たしかバイクも動かないようなものがあそこに置いてあったような記憶があるんですが、どうでしょうか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） お答えした台数はすべて専用車でございます。機能は十分果たしております。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 私は目の錯覚かなと思うんですが、どうもバイクが壊れていたような記憶があるんですが、いつの間にか直していただけたんでしょうというふうに判断をしておきます。

基本的には、家事援助型のヘルパーさんが行きますと、例えばそのお宅の要望によって買い物に行ったり、出たり入ったりしなきゃいけないわけです。そういったために — 1日に行く場所が1軒ということではないわけです。平均して1人のヘルパーさんが1日に何軒のお宅を訪問することになっていますでしょうか。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 訪問先での介護の内容あるいは時間等によっていろいろまちまちでございますけれども、1日平均3軒か4軒、その程度 — 詳しくは今手元に資料がございませんけれども、その程度かなというふうに考えております。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 3軒、4軒という、大体その程度だろうと思うんですが、場所も本当に隣近所であれば問題ないわけでしょうけれども、結構離れた場所へも行かなきゃならない。端的に言えば、午前中は船形で、午後は布良、相浜の方まで行かなきゃならないということもあるかと思います。そういったことから考えても、どうも — 私はさっき本当に動きますかという

ことを言いましたけれども、自転車8台は、市内の本当の駅の近所というんですか、そういうところだったら構わないんでしょうけれども、自動車、バイク — 山の中もあります。こういったものに対する数というのが非常に少ないように思います。今後ヘルパーさんをふやしていくという方向づけがありますので、こういったものも今後1人に1台専用で、その人専用で使えるというようなぐらいのものをつくっていただいたいというふうに要望をしておきたいと思います。

次は4点目です。友情の絵はがきの問題なんですが、これは要するに募金というんですか、募金のようなものというふうに認識してしまっているのかどうか。例えば、現実に売れぐあいはつかんでいますでしょうか。そして、例えば売れなくて残ってしまったというような場合どうしていますか。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 議員のお説のとおり、これは募金でございます。そして、これにつきましては、学校の形態によりまして、それぞれの募金方法がございます。生徒会を中心にする場合、児童会を中心にする場合、それとともにPTAの席上等、一般の御父兄の方々等も協賛を得ていて、その募金活動をしているわけでございます。

次に、その配付数でございますけれども、これは各学校の児童生徒の数よりも幾分下回った数でもって、各学校へと出張所を通じまして依頼をしているところでございます。

なお、各学校で売れ残ったものにつきましては、出張所の方へ返品をしている現状がございます。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 残った絵はがきは出張所に返しているということですが、例えば現場において、生徒の数の7掛けだか8掛けだか、ちょっとその辺はわかりませんが、若干少ない数を各学校に配付なさって、その際に全部売り切れというような指導はしていませんね。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） これはあくまでも教育委員会の通過じゃなしに、出張所を通じまして各学校へと行っておりまして、そういう強制的なものではございません。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 私がどうもお話したのと状況が違います。現場では、売れ残ってしまったはがきについては、非常に負担を感じるので、自分で買い取ってしまうというような教員が多くいるということを伺っております。そして、出張所の方に残ったはがきを返すというようなことをしたという経験はないというふうに聞いております。どうもこの違いはその辺なんだろうと思うんですが、この問題については、私は県議会を通じて、県議会の委員会の中でお願いをしてありますが、この運動の始まりは強制的にお願いをしていないはずで、義務感を持ってしまわないよう、再度適切な指導をされますようお願いをしたいというふうに思います。現実には義務感を持ってしまっている教師がいるということをここで指摘をしておきたいというふうに思います。子供たちの助け合いの気持ちと豊かな心を育てるために始めたと聞いておりますので、せっかくのこの運動が無になってしまわないように願っております。この問題についてはそういうことでお願いをしたいと思います。

次に、用務員の身分保障についてなんですが、パートになったのは50年の後半からということでしたが、近隣ではどうなのでしょう。用務員の方のパート化というんですか、そういうような状況というのは近隣ではどうでしょうか。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 近隣7教育委員会の中におきまして、用務員を臨時職員として採用しておる地区は2地区でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 私も、近隣では余り聞けなかったんですが、県の北の方で聞いてきたんですけれども、正規の職員が非常に多いんです。臨時というんですか、パート化をしているところというのは私が聞いた限りではな

かったということです。

先ほど対処しやすいというようなことを伺ったんですけれども、なぜだというふうに思うんです。今年度から賃金が日給から時給になっています。この点についてもいま一つ納得できないなというふうに思うんです。例えば、年休のとり方なんです、年休は半日の年休処理というんですか、半日処理みたいなとり方というのはできるんですか。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 時給でございますので、時間給的な扱いでもって実施しております。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 非常に細かいことを言うようですが、年休のとり方についてひとつお聞きをしたいんですが、例えば8時半から5時15分が勤務時間というふうにされていますけれども、その学校の都合によりまして、各行事ですとか、いろんなことがありますから、時間の調整というんですか、時間が若干その時間よりもずれるということはあると思うんです。そういった場合、例えば8時半とされていますが、8時あるいは7時ごろということも年に1度ぐらいはあるでしょう。そういった場合、半日年休をとりたいといった場合、ちゃんと8時間ですけれども、4時間ずつの半日というふうに切って、年休をきちんと時間で本当にとれているんですか。

◎副議長（小宮利夫君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） この勤務時間につきましては、ただいま申し上げましたとおりに、学校によりましていろいろ現状が違いますので、8時間の労働時間というものを中心にいたしまして、前後の勤務の開始並びに終わりが違っている学校は出ております。ただいま議員さんの御質問のそのような問題は解決できるといたしましても、ただ行事等でもって時間を多く延ばすとか、または臨時に雇用しなければならないというような場合には、何日か分のやはり保障ができるようなこととしておりますし、年次休暇につきましては、本人の申し出があった場合には、直接の監督者である学校長がその意図を解しまして与えるようにしております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 一般的に役所関係のパート労働者は——臨時職員ですよね。低賃金であると一般的には言われております。こういった方が働き続けられるために、年休のとり方、あり方、交通費の増額など、また賃金のアップなども含めまして、今後そういったことをお考えいただいて、お願いをしておきたいと思います。

時間がありませんが、6番目の雇用対策についてなんですが、昨年の9月議会でもこの問題については質問しておりますが、庄司市長のスローガンの中に、活力に満ちた誇りと愛着の持てる館山、またふるさと館山を愛し、市民とともに歩むというようなことをうたってございました。今回の、先ほども申し上げましたように、NTTの合理化によりまして、単身者や家族を含めた多くの方が館山から転出されることは、これはもうはっきりしております。明らかになっております。来年の1月の17日というふうに出されております。また一方で、小さな子供を抱えたお父さん、あるいは介護者を抱えたお父さん、そういった方々も遠距離通勤をするというようなことになっております。そういったことは企業内の問題ということもあるんですけども、やはり市民である以上、行政はこういう人たちのために企業に対してお願いするという姿勢を私は持ってほしいと思うんです。先ほどの答弁の中でそういったことを話し合う安房地域雇用協議会というのがあるというふうに聞いておりますが、私は企業に対してあなたのところはこういうふうにしろというふうな差し出がましいことをしろということまでは言っておりません。でも、市民がこうやってどんどん、どんどん、少しずつ少しずつですけども、気がついたら本当に随分多くの人たちが出ていってしまっているという現実が——人口の表を見ても、明らかに少しずつ少しずつ少なくなっていると思うんです。そういったことも考えまして、やっぱり企業に対してもお願いする、市としてお願いするということがら私にはしてもらってもいいんじゃないかというふうに思っております。

時間がありませんから、JRの問題に移ります。JRと行政のかかわり方

についてなんですけれども、どうもＪＲと話していると、ついこちらも感情的になるんですけれども、非常に高圧的な態度で物を言いますので、ついこちらもかっとしたりなんかするんですが、例えば民間の京成や東武鉄道など、ああいったところは駅舎は自分のところでお建てになっているんです。ＪＲだけです。国営のときにいただいたものの中に建物を建てて、それで民間になったからその自治体が駅舎を建てるのは当然だみたいな、こういった態度をするのはＪＲだけなんです。この件についても向こうの方と随分議論になったんですけれども、発想がもう全然違うんです。こういったことを定期的に話し合う機会があるようなので、橋上駅舎について定期的に話し合うような機会があるようなので、そういったところでも少しずつやっぱりＪＲにも出させるというふうなことをやっていただけたらというふうに思います。

今度の12月の3日のダイヤ改正で電車の数が、館山から鴨川が非常に減ったということで、この問題についても言ってきましたけれども、館山から鴨川に通っている人はいっぱいいますので、学生さんも含めていっぱいいますので、今後そういったこともあわせてお願いをしていただきたいというふうに思います。

終わります。

◎副議長（小宮利夫君） 以上で7番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後1時59分

◎副議長（小宮利夫君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明15日は議案調査のため休会、次会は12月16日午前10時開会とし、その議事は各議案の質疑を行います。

この際申し上げます。各議案に対する質疑通告の締め切りは12月15日正午まででありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問